

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第三小学校
校長 桂樹 祐治

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・「国語の勉強が好きだ」と答えた児童は全国値をやや下回っている。
- ・「国語の授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合は全国値とほぼ同じである。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は高いが、全国値をやや下回っている。
- ・「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と答えた児童の割合は全国値を下回っている。
- ・「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と答えた児童の割合は、全国値をやや下回っている。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「話すこと・聞くこと」

全国値を下回っている。

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をするという出題の趣旨では、全国値をやや下回っている。問題の読み間違いや勘違いから誤解答につながっているように思われる。
- ・目的に応じて質問を工夫するという出題の趣旨では、全国値を下回っている。工夫して質問をしているという意図を読み取れなかったように思える。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめるという出題の趣旨では、全国値を下回っており、上記の問題以上に無回答が多くみられた。自分の意見を短くまとめるということが苦手な傾向にあると考えられる。

「書くこと」

全国値を下回っている。

- ・「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる」では、調査した内容と結果から分かったことを報告するにあたってふさわしい表現で書くことが求められる。文章をふさわしい表現で書くことはできるが、内容の読み取りが不十分で分かったことを書ききれない児童の割合が高かった。また無回答率が高かったことも正答率の低さにつながったと推察される。

「読むこと」

全国値を下回っている。

- ・「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」では「知りたいこと」が提示されている中で目次だけを読み、答えを導きだすことを苦手としていえる。他の問題よりも正答率が高いのだが、全国値に比べると低さが目立つ。また無回答率が全国値の4倍にあたることも正答率の低さにつながったと推察される。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

全国値はやや下回っている。

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」では、当該学年までに配当されている漢字を文や文章の中で使うことが求められている。熟語であれば一方の漢字からもう一方の漢字のイメージで、正答率につながったと考えられる。また、漢字については全国平均を上回っており、定着が見られる。
- ・「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」では、ことわざの意味を理解し、文章に用いることが求められているが、ことわざを日常生活で使う機会がなく、日常生活と結びついておらず、イメージしにくかったことで無回答率が高く、正答率の低さにつながったと考えられる。

●国語科における成果と今後の改善点について

漢字を文の中で使うことについては、全国平均より正答率が高く、定着が見られている。しかし、各領域について課題が見られ、苦手意識からか、無回答率が高い。特に、自分の考えをまとめるといった、条件のある設問では、全国に比べて顕著に無回答率が高くなっている。

質問紙では、「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」の本校児童の肯定的意見は全国値を大きく上回っている。その意欲を大事にしながら、漢字等の基礎基本の定着に向けて取り組みを継続すると共に、毎日の授業の中で自分の考えや意見をまとめ、表現する取り組みを進めたい。また、今後も読書活動の充実を図りつつ、授業の中で幅広い言語文化に触れることを大切にしていきたい。

●算数《概要》

- ・「算数の勉強が好きだ」と答えた児童の割合は全国値を下回っている。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は全国値をやや上回っている。
- ・「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法で解きますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は全国値を下回っている。
- ・「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は全国値をやや下回っている。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「数と計算」

全国値を下回っている。

- ・設問2(4)「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」では、先に乗法の計算後、その解に加法をするという規則を理解しているかを求める問題である。 $6 + 0.5 \times 2$ の問題で、計算順序理解に課題があることがわかる。整数と少数の計算はできている。

「量と測定」

全国値を下回っている。

- ・本領域は全部で3題。3題とも全国値を下回っている。その原因として、3つ挙げる。まず、3題とも記述式(全領域で4題のうち3題が量と測定)であること。説明を要するため、簡単に解答できないところが正答率を下げているといえる。次に、3題ともに2ページにわたる長文であること。無回答率が高いのも、最後まで読み切れなかったことが原因と考える。最後に、情報が多かたり、途中で変更したりしているため、どの数値を関連付けて立式したり説明したりすればいいか複雑になっていること。設問の前半の情報は、解法の道筋を付けているがそれ自身が解答にはならない。答えを出すために必要な数値がどれか曖昧になってしまったと考えられる。

「図形」

全国値とほぼ同じである。

- ・設問①-1「長方形を直線で切ってできた図形から、台形を選ぶ」では、4種類の四角形の中から、定義に基づいて、台形を選ぶ力が求められる。4種類の四角形は、どれもシンプルであることから、誤答した児童は台形の定義をしっかりと覚えていないと考えられる。

「数量関係」

全国値を下回っている。

- ・本領域は全部で3題。3題とも全国値を下回っている。その原因として、3つ挙げる。まず、3題とも記述式（全領域で4題のうち3題が量と測定）であること。説明を要するため、簡単に解答できないところが正答率を下げているといえる。次に、3題ともに2ページにわたる長文であること。無回答率が高いのも、最後まで読み切れなかったことが原因と考えられる。最後に、情報が多かたり、途中で変更したりしているため、どの数値を関連付けて立式したり説明したりすればいいか複雑になっていること。設問の前半の情報は、解法の道筋を付けているがそれ自身が解答にはならない。答えを出すために必要な数値がどれか曖昧になってしまったと考えられる。

●算数科における成果と今後の改善点について

算数について、量と測定について課題が見られ、また、記述での回答が求められる問題では、無回答率が高くなっていった。質問紙を見ると「算数の勉強は好きですか」という問いに対して本校児童の肯定的意見は全国値を下回っているが、逆に「算数の勉強は大切だと思いますか。」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的意見は全国値を上回っている。このことから苦手意識はあるものの、算数の学習に対する必要性を感じていることがわかる。

本校では、算数の学習については、3年生からの習熟度別少人数指導に取り組んでいる。それ以外でも、基礎学力をつけるため、朝学習において、復習や反復練習などの取り組みを継続している。また、放課後学習会「すまいる学習」は、金曜日に、算数科における基礎基本の定着を目的に、全学年を対象として行っている。（毎月の行事予定に記載）自主的な参加ではあるが、ご家庭でも、放課後学習会「すまいる学習」に積極的に参加するようお声かけをお願いしたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

- ・朝食については、9割以上の児童が毎朝食べてきている。

「早寝・早起き・朝ごはん」は、生活習慣の中で最も基本的なものであり、ほとんどの児童ができている。生活習慣が乱れる原因や、学習の準備や宿題ができない原因に「テレビやDVDを観ている時間が長い」というのも考えられる。テレビやゲームの時間や内容、携帯やパソコンの使い方等、家庭でのルールを作りが大切である

- ・人が困っているときは、進んで助けるといふ児童が8割程度いる。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して、肯定的な意見は7割を超えているが、「そう思わない」児童も1割以上いる。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の問いについては、肯定的な意見が全国平均を下回っており、否定的な意見が全国や府の平均を上回っている。

自己肯定感が高ければ、他の子どもにも優しくできる。また、学習にも前向きに取り組むことができる。難しく途中で投げ出したくなっても諦めずに、最後までがんばって続けられるようになる。できたことを認め、「がんばったね」と励ましていくことが大切である。

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対して「そう思わない」児童が1割を超えている。
- ・「学校のきまりを守っている」と答えた児童は全国平均を下回っている。

「きまりを守る」ことは、本校児童において最も育てなければいけない力だと考える。今後も、学校のきまりや授業規律など、「きまりを守る＝正しい行動がわかる」という視点を大事に、丁寧に指導を進める必要がある。学校だけではなく、毎日の生活の中で規範意識を育てることが大切であり、地域や家庭と連携していくことが必要である。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、国語科・算数科ともに、知識の定着に依然課題が残っている。国語科においての自分の考えを書くこと、算数科においての記述式の問題について特に課題が見られる。課題を克服するために、今年度より学校努力目標を『見方・考え方を働かせて、自分の思いや考えを伝えよう。』に設定し、主体的・対話的で深い学びをめざし取り組みを進めている。また、今後の一層の学力向上のため、以下の通り、取組の継続および指導方法の工夫改善を図ってまいります。

- ・漢字・計算等、基礎基本の定着に向けて、朝学習や放課後学習などの取組を継続する。
- ・思考を深め、豊かに表現する力を育む授業展開をめざし、学力向上に向けた授業改善を進める。
- ・読みとった資料や既習の事柄を使い、説明したり、考えを書いたりする活動をもとに思考を深められる学習活動を設定する。

また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、基本的な生活習慣の定着はもとより、生活規律・学習規律等の規範意識の醸成に努めなくてはならない。そのためには、一層、家庭・地域と連携し、学校として、子どもたちの自尊感情を育み、人間関係づくりを醸成させる取組を進めていく必要がある。

保護者の皆様には、今回の分析結果を踏まえた学校の取り組みにご理解をいただき、今後ともご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。